


食育事業取組報告書(米子小学校)

食育活動区分	(該当するものを口で囲む) 育てる・作る・食べる・返す	実施年月日	5年 4月～11月
教科名	生活科	指導者	教諭
単元名	わたしたちの野さいばたけ		
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 野菜の成長を楽しみにしながら、親しみの気持ちをもって野菜の世話をしようとしている。 進んで野菜を育てる活動を通して、野菜も生きているということを実感し、またそれを食べることに感謝する気持ちを育てる。 		
児童・生徒の活動		支援・指導上の留意点	資料
<ul style="list-style-type: none"> ○育てたい野菜を決め、育て方を調べる。 ○野菜の苗を植える。 * 用務手にお礼の手紙を書いた。 ○農家の方から果物の育て方のコツを教えてください。 ○水やりや草取りなど継続的に世話をします。生長を記録する。 ○収穫した野菜を観察し、家庭に持ち帰って食べた。 ○野菜作りの経験をもとに、みんなで詩をつくる。 ○いちごの苗を植える。 		<ul style="list-style-type: none"> 育てたい野菜を一つ決め、栽培時期や栽培方法を調べた。 用務手(畑の先生)と野菜を植えた。苗の植え方とともに、水やりを欠かさないこと、背が高くなったら支柱を立てること、毎日見に行くと成長を確かめることなどを教わった。 地域のいちご農家に、果物の育て方のコツについてインタビューした。 登校後に苗の水やりをする。 収穫した野菜は家に持ち帰り、家庭で調理してもらった。 国語の詩の学習と関連させ、野菜作りの活動を一つの詩にまとめ、学習発表会で保護者・地域住民に発表した。 JAから寄付していただいたいちごの苗を植えた。 	
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> 猛暑の中ではあったが、無事野菜を収穫することができ、子どもたちが収穫の喜びを味わうことができた。 いちご農家の見学では、実際にビニールハウス内を見学させていただき、いちごの収穫もさせていただいた。新発田市発祥である越後姫を味わうことができ子どもたちはとても喜んでいました。 自分の苗をしっかり責任をもって育て、収穫したら家族のために持ち帰った。「自分で育てた野菜を食べてみたら、苦手だった野菜もおいしく思えた。」と記述する子も見られ、食に対する意識の変化が見られた。自分たちで食べ物を育て、食べるという活動はとても有意義だった。 		
家庭・地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> 学年だよりで、子どもたちの様子や野菜の生長を知らせた。 地域のいちご農家の方に果物の育て方のコツを教えてください。また、実際にいちごの収穫体験もさせていただきました。 収穫した野菜を家に持ち帰ったことで、家庭でも食べてもらえた。 野菜作りの経験をもとに、クラスで詩を作り、学習発表会で保護者・地域住民に発表した。 		